

桜の咲くころ、色とりどりのランドセルを背負った一年生が小学校に入学してきます。今年度、南国市内の小学校には415名の新一年生が入学するそうです。子どもたちは、わくわく、ドキドキ胸を躍らせて入学の日を迎えることでしょう。

子どもたちは、3月・4月の短い間に、慣れ親しんだ保育所などから小学校へと、大きく環境が変わります。その変化は、想像以上に大きいものです。教科を中心とした学習が始まり、生活環境や時間の流れも大きく変わります。また、新しい友だちや先生と人間関係を築いていかなくはなりません。大人でも、新しい職場や慣れない土地での生活には、同じように不安を感じるのではないかと思います。

「お兄ちゃん、お姉ちゃんになったから、小学校に来たんだ」子どもたちはそう思って小学校に来ることでしょう。けれども、入学直後は大きなストレスを抱えて生活をするようになっていのではないかと思えます。子どもなりに、周りに適応しようと毎日一杯ががんばっているのです。

小学校の先生や保護者は、子どもの気持ちに寄り添い、ゆつくりと小学校の学習や生活に慣れるよ

「わくわく、ドキドキ一年生」

うに見守ることが大切ではないかと思えます。つい、「そんなことでは一年生になれないよ」「もう一年生になったんだから」といつてしまいがちではないでしょうか。小学校入学を楽しみにしていた子どもたちは、「大丈夫やろうか」と不安になるかもしれせん。

家族や周りの大人たちは、子どもたちが意欲を持つて新しい環境に入っていくことができるよう、よきサポーターになることが必要ではないでしょうか。あせらず、「ゆつくりでいいよ」と応援し、励ましていきたいものです。

来年また桜の咲くころまでに、立派な一年生になっていることを楽しみにしています。



※お問い合わせは

人権啓発広報委員会

(☎880・6569) まで